

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行令の
一部を改正する政令の概要

▽特定外来生物の指定対象種について（令和5年9月1日より指定）

分類	種名	指定理由	参考
動物界 昆虫綱 甲虫目 かみきりむし科	<u><i>Anoplophora glabripennis</i></u> (ツヤハダゴマダラカミキリ)	・生態系に係る被害 ・農林水産業に係る被害	別紙1
	<u><i>Apriona swainsoni</i></u> (サビイロクワカミキリ)	・生態系に係る被害	別紙2

ツヤハダゴマダラカミキリ

分類: コウチュウ目カミキリムシ科ゴマダラカミキリ属

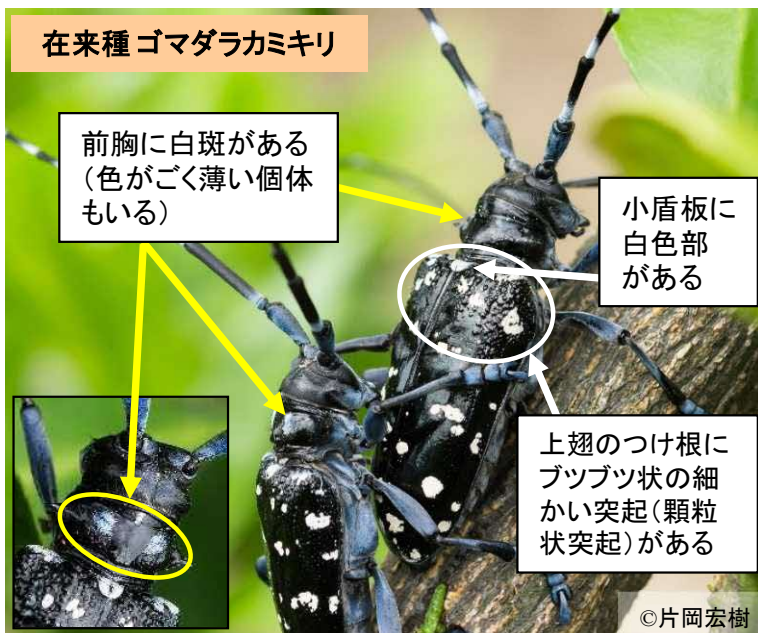
和名: ツヤハダゴマダラカミキリ

学名: *Anoplophora glabripennis*

英名: Asian long-horned beetle

原産地と分布: 中国、朝鮮半島北部(移入分布: ヨーロッパ、北米、日本)

形態的特徴: 成虫の体長は17~40 mmで、とくに30 mm前後のものが多い。成虫の体色は光沢のある黒色をしている。触角は長く、黒色と淡青色の縞模様をしており、オスは特に長い。前胸背板の側方に目立つ1対のトゲ状隆起がある。背面には白色の斑紋がある。



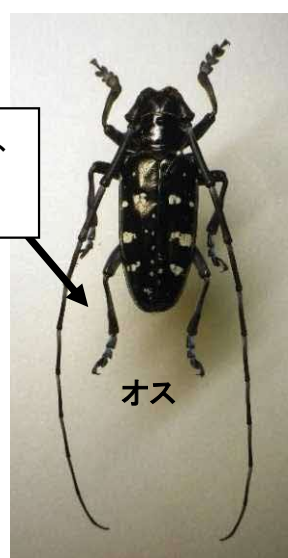
類似種との識別点:

国内にはゴマダラカミキリ等、同属の在来種4種が分布している。各種とも類似するが、上翅のつけ根の細かい突起の有無等の特徴から識別できる。



ツヤハダゴマダラカミキリの産卵痕

オスの触角は長く、体長をはるかに超える



特記事項: 既に、日本国内において、アキニレ等の街路樹や植栽木への加害が確認されている。本種の定着域では、被害木の枯損や落枝・倒木等により人への被害が発生する危険性もある。また、本種の寄主植物のうちリンゴ属、ナシ属、バラ属等は、農産物として全国的に栽培され、食害等による農林業への被害のおそれがある。

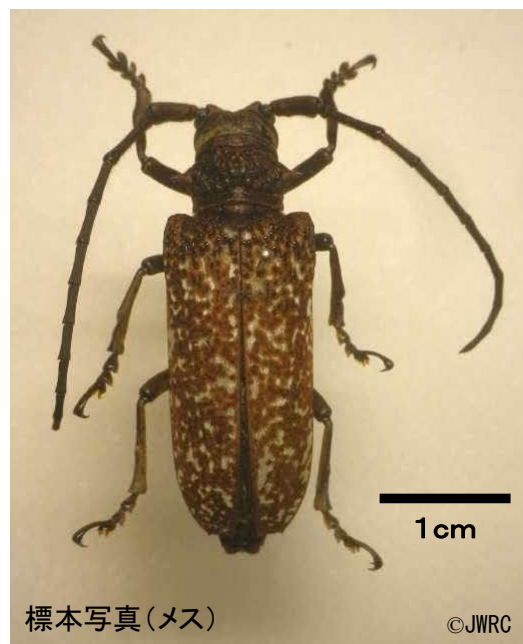
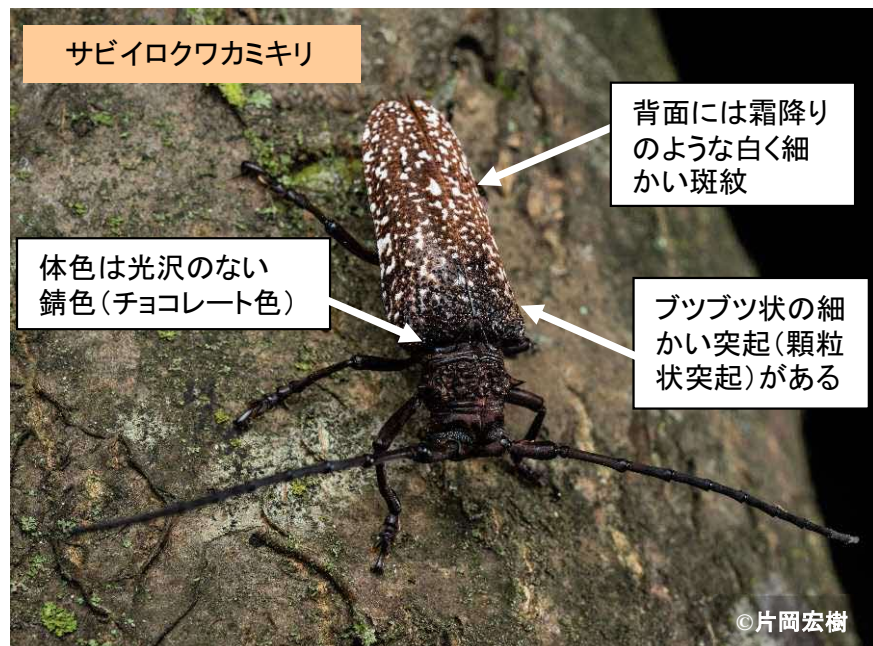
サビイロクワカミキリ

分類: コウチュウ目カミキリムシ科クワカミキリ属

和名: サビイロクワカミキリ

学名: *Apriona swainsoni*原産地と分布: インド、ミャンマー、カンボジア、タイ、ベトナム、ラオス、
中国、朝鮮半島など(移入分布: 中国は国内移入による侵入地域あり、日本)

形態的特徴: オスは体長26.4mm～33.6mm、メスは体長33.8mm～39.7mm。頭部には中央に縦溝があり、複眼は暗褐色で大きく目立つ。オスの触角は体よりやや長く、メスの触角は体よりやや短い。成虫の体色はサビ色で背面に白い斑点があり、上翅基部には顆粒状の突起がある。



サビイロクワカミキリの産卵槽(産卵マウンド)
産卵槽は樹幹に成虫の分泌物で塗り固められた円丘を形成する特徴を持つ。



サビイロクワカミキリの排出孔
幼虫の排出孔は1か所で繊維状の木屑を出す。



類似した種との識別点:
国内にはクワカミキリ等、同属の在来種3種が分布するが、上翅斑紋の特徴から容易に識別できる。

特記事項: 既に、日本国内において街路樹や市街地等に植栽されているイヌエンジュ、エンジュへ加害し、枯損させる事例が確認されている。街路樹等の植栽樹が加害されることで、景観へ悪影響を及ぼす他、市街地での公共の場において被害木の枯損や落枝等による人への被害が発生する危険性もある。